

キラリ光るモノづくり

土井インテリア工業株式会社

代表取締役 土井 真弥 さん

住所 〒83010226

久留米市城島町西青木660

TEL...094216214125

FAX...094216214126

HP...<http://doi-interior.co.jp>

今月は土井インテリア工業(株)の土井真弥さんにお話を伺いました。

土井インテリア工業(株)が創業したのは、1975年。現在46期目を迎えられました。

「最初は私の祖父が経営していた家具資材販売会社の家具製造部門という形でスタートしました。現在は30名の従業員とともに、家具業界でいうところの箱物家具を作っています。箱物とは、タンスやキャビネットなどの箱状の家具のことを指しますが、中でも当社では食器棚やテレビボード、シューズボックスといったものが主力商品となります」

製品の特長は「カジュアルデザイン」と話された土井さん。これも創業時から変わらないこだわり1つとのこと。「その証に事務所のエンブレムに『casual mind』の文字が刻まれたエンブレム

が掲げられています。いつでもおしゃれな服を着るようにインテリアもおしゃれにこだわりたいといったお客様のニーズに、いつの時代にも応えられるよう、常に新しいデザインの家具を提案させていただいています。

それから、国内生産にもこだわっています。材料を仕入れてからの作業、材料カットの工程から完成品の組み立てまで、全て自社工場で行っています」

2018年に社長に就任された土井さん。大学を卒業されてからは家具業界ではなく、他のモノづくりの企業に就職されたそうです。

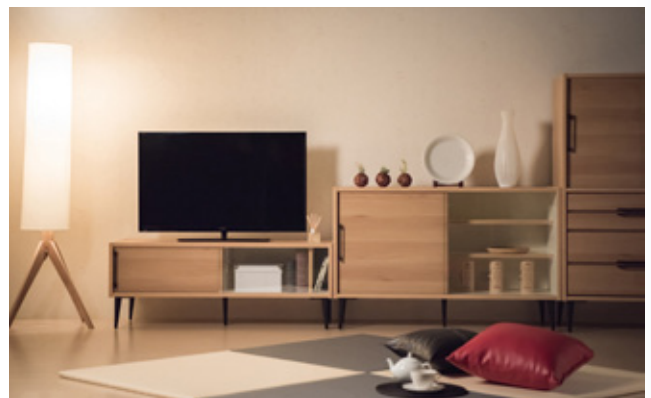
「子どもの時から『会社の跡を継ぐとかは気にしないで、お前はやりたい職業に就きなさい』と言われて育てられ、本当に好きなおりにやってきました。その中でも車が好

きでしたし、大学生の時に買った中古車に惚れ込んで、ぜひその車メーカーで働きたいという強い思いがあり、念願叶って就職することができました。家具とは全く異なる業種でしたが、前職での様々な経験が今の私のモノづくりの原点になっているんじゃないかなと思います」

大学、就職と大川を離れていた土井さん。大川へ戻られたのは、8年ほど前とのこと。

「長男だったこともありすが、なによりこの地域に対して、育ててもらったことへの恩返しをしたいという思いと、前の会社で身につけたモノづくりの楽しさを会社のみんなにも伝えたいとの思いで戻ってくることを決意しました。

戻ってきた当初は、家具の造りや構造について知る必要があったので、製品の図面を





綺麗に整理された工場内



外観

書くかたわら、工場の手伝いもしていました。以前勤めていた会社も同じモノづくりの企業でしたが、従業員が1万人いる大手企業と、かたや30人にも満たない小さな会社では、仕事のやり方は全く異なり、かなり戸惑いがありました。専門部署があり、そこに人がたくさんいるわけではなく、一人でもなんでもやらなければなりません。限られた時間の中でどうすれば社員が安全に効率よく、働ける会社に成長できるのか考えた時、工場の中がモノづくりをする現場ではないなと感じました。材料がどこにあるのかわからない、うず高く積み重ねられた仕掛品に囲まれて全く身動きが取れないような、ムダだらけの工場でした。まずはそこから変えていこうと思い、会社全体の取組として『※5S活動』をスタートしました。

現場の5S活動を基礎として、様々なセミナー・講習会にも参加し、社員教育にも力を入れていきます。大川信用金庫さんの地域貢献活動のひとつである『5Sサークル』にも参加をされていて、現在6社の企業が集まり、月に1回勉強会を開催しています。毎月それぞれの会社を生きる題材にして、整理整頓ができてないところはお互いに指摘し合

い、良いところは自社にも反映させる活動を継続しています」

これまで6年近く、5S活動を続けてこられた土井インテリヤ工業。

「どんなに忙しくても、将来の自分たちに投資するという目的で休むことなく続けていきます。最初は、忙しいなか生産を止めて活動することに抵抗もありましたが、次第に仕事のやり易さに繋がってくる」とそれも薄れてきました。

その結果、会社の体質が筋肉質な体質になってきました。環境の変化に対しての対応力がついたかなと思います。今年7月の豪雨で、工場が浸水してしまいました。その影響で生産がストップしてしまいました。旧作業の甲斐もあって、6年前なら片付けに1週間位はかかっていたところ、被災してから1日半で工場の生産を再開することができました。これも休まず続けてきた5S活動の効果かなと考えています」

製造機械にも影響があったそうです。

「どうしても稼働しない機械があつて、日頃から親しくしていただいている設備業者様に対応してもらい復旧できました。資材の納品も生産計画の見直しに伴い、急な日程変更がありました。地場の協力企業様のきめ細やかなご対応のおかげで早期復旧することができました。それも木工の街、大川であるからこそできることで、ご協力いただいた皆様には大変感謝しております。我々家具メーカーとしては、そういった方々とこれからも一緒に肩を組んで、切磋琢磨していきたいと思っています」

現在、大川商工会議所青年部にも所属されている土井さん。

「私自身、佐賀で生まれ育ちましたので、大川に住む親戚以外は大川には知り合いはほとんどいませんでした。周囲の勧めもあり、こちらに戻ってきた翌年には、商工会議所青年部に入会しました。そこでは、様々な業種の方たちと青年部活動を通じて、多くの人脈を築くことができました。それが今の仕事にも非常に役に立っています。家具の資材に困ったときはその業界に精通したメンバーがいるし、建物の修繕や製品加工用の刃物の事で困ったことがあれば、そういった仕事を生業としているメンバーに相談できるの

で、非常に仕事がやりやすくなりました。特に私と同じように他地域から大川へ来られた方や承継された方には是非入会をお勧めしたいですね」

土井さんに夢をお聞きしました。

「この地域に成長してはならない会社に成長したいと思っています。特に若い人たちが『あの会社で仕事をしたい！』と思ってもらえる企業になりたいですね。

それから、働く人たちに少しでも、安全でやりがいのある仕事をしていただけるような環境づくりとモノづくりの楽しさを共有したいです。『アイデアが形になって、お客様と一緒に働く仲間、地域の皆様に喜んでいただけること』がモノづくりのやりがいだと考えています。仕事をする中でみんなキラリと光るアイデアを持っていきます。それをどんどん引き出していくことが私の仕事だと考えています。常にチャレンジをして、働く仲間と共に時代の変化も乗り越えていきたいですね。そして、現状に満足することなく、こんな会社だったら安心して取引できるとお客様に感じていただけるような魅力ある商品と現場づくりを続けていきたいと思っています」